

# イタイイタイ病 今も続く被害地域住民の 活動だより

vol.3



発行 一般財団法人  
神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会  
イタイイタイ病対策協議会  
神通川流域鉛害対策連絡協議会  
発行日 令和7年11月21日  
富山市婦中町萩島684(清流会館)  
TEL 076-465-4811

1

## 手直し要望箇所の現地確認調査が始まる 年内の完了をめざす



現地確認が富山県・富山市・土地改良区により開始



手直し工事 8年度完了目指し急ピッチで進む

- 本年1月～6月にかけて手直し工事の追加要望が出された約700箇所について、現地確認の調査が11月中旬より開始されました。同調査は富山県・富山市・地元土地改良区が中心となり、年内に面積・箇所数の握把を目指すとしています。
- 本年度の総工事費は1億2,300万円で約1.8倍に増額されており、平成30年調査の手直し箇所の令和8年度完了に向け、工事が急ピッチで進められています。
- 来年度は9年度からの追加工事開始に向けた事業計画の策定、予算の確保に加え、地元負担をゼロにするための協議が正念場を迎えます。

2

## 被害地域住民の健康を守る活動

- 「住民健康調査対象年齢の引下げ」について環境省と継続的に協議

今年の住民健康調査では対象年齢下限の70歳の方が精密検診対象者として認められました。この方は65歳の検査結果は0.12mg/g Crから今回5.4mg/g Crと5年間で急激に数値が上昇しています。このことから60、50歳代の方にも腎臓障害の可能性のある方が存在しているのではないかとの懸念から、対象年齢の引下げを環境省へ要望しています。

- 金沢医科大学 来年3月に被害地域の健康調査実施

金沢医科大学医学部衛生学の櫻井勝教授を代表とする研究グループが環境省委託研究「神通川流域の健康調査」を実施します。金沢医科大学による調査は2020年について2回目です。この調査で住民の健康状態を把握し腎障害などの健康被害が軽減しているかについて明らかにする調査です。

自分の腎機能の変化を知る良い機会ですので皆さん受診しましょう。

- 富山県公害被害認定審査会で新たな「要観察者」の判定なし

本年度の認定審査会は8月24日開催されましたが、住民健康調査の精密検診で将来イタイイタイ病患者になる可能性ある要観察者は新たに判定されませんでした。当該審査会は精密検査受診者55名を審査いたしました。

### 3

## 被害地域の環境を守る活動

### ● 植栽専門立入調査

7月5日、神岡鉱業(株)への植栽専門立入調査を実施しました。

今回の調査の目的はハイパー・カミオカンデの工事で排出された岩石を円山陥没の埋立に利用していますが、その埋立完了後の植栽について調査を行いました。神岡鉱業(株)の前川取締役鉱山部長から植栽する樹木の選定や試し植えの状況報告がありました。引き続き試し植えの継続観察を行い、2年後に始まる本格的な植栽事業に対し植栽の専門科学者である荻原先生からアドバイスがありました。



植栽専門立入調査 円山陥没



鹿間工場を調査する住民 脱水銀塔前

### ● 第54回全体立入調査・事前学習会

第54回全体立入調査が10月11日に行われました。1週間前には事前学習会を開き調査コースのポイントや発生源対策の意義を学びました。今年の立入調査には協力科学者、イ病弁護団、住民ら61名が参加して、午前中は鹿間工場、六郎工場、露天掘り・堆積場の3コースに分かれ現地を調査し、午後は神岡鉱業(株)と質疑応答を行い両者で知恵を出し合い持続可能な公害防止対策を目指していくことを確認しました。

### ● 住民立入調査で鹿間谷川の採水

住民から選ばれた専門委員を中心に、10月25日に鹿間谷川のカドミウム濃度を調査するため住民立入調査を実施。下流から上流部まで17箇所で採水測定を行いました。

### 4

## イタイイタイ病を風化させないための活動

### ● 第50回全国公害被害者総行動デー 浅尾環境大臣出席のもと開催

6月4日、江添良作代表理事の挨拶で始まりその後、皆様方の国民署名17,515人分（富山分2,916人）を浅尾環境大臣に手渡しました。

昨年の水俣でのマイク切り事件を受けて、今回は出席者の意見を十分に聞く対応を環境省は示しましたが、各地区からの要望については依然あいまいな答弁に終始していました。その後、環境省へ当協議会からの要望について交渉を行いました。



大臣交渉で挨拶する江添代表 環境省



浅尾環境大臣に署名簿を手渡す

当協議会からの要望事項については添付QRコードでご確認願います。



### 総行動についての一口メモ 総行動の始まりとイタイイタイ病の関わり

1973年のオイルショックにより日本経済が低成長時代に入り、公害規制が厳しくて乗り切れない企業が「公害は終わった」と主張するキャンペーンを繰り広げました。

そのきっかけになったのはイタイイタイ病について文芸春秋（1975年2月号）に「イタイイタイ病は幻の公害病」という記事を載せ、原因論争の蒸し返しキャンペーンが始まり、当時の石原慎太郎環境大臣は公害反対運動を「魔女狩り」とする発言をしました。このような政府と財界の公害反対運動に対する熾烈な巻き返し攻撃に全国の公害被害者が連携して真っ向から対峙したのが全国公害被害者総行動実行委員会です。この総行動は1976年6月に初めて開催され、今年で50回目となりました。

## ● 被害者団体が新潟水俣病の現地視察

現在も裁判が続いている新潟水俣病の理解を深めるため、6月21、22日視察研修を行いました。現地では新潟水俣病共闘会議の高野幹事長から原因企業の旧昭和电工鹿瀬工場のメチル水銀などを流した排水口や阿賀野川上流域を視察して、新潟水俣病の症状や発生地について説明を受けました。その後、新潟水俣病資料館を訪れ藤田館長から説明を受けました。



旧昭和电工鹿瀬工場の排水口を現地視察



次世代研修会に参加された皆様 イ病資料館

## ● 第53回裁判勝訴記念講演会

毎年8月9日は裁判完全勝訴を記念して講演会を開催しています。



今年は金沢医科大学医学部衛生学特任教授の櫻井勝教授により「神通川流域住民の健康が土壤復元によってどれほど改善したか」の研究報告をしていただきました。研究報告によると60歳代の住民にも一定の尿中Cdが5µg/gCrを超える方がいることが分かり、今後の経過観察ならびに追跡が必要との報告がありました。当協議会では環境省、富山県に引き続き住民健康調査対象年齢の引下げを要望している重要なエビデンス（証拠）として、櫻井先生の研究に協力することにしています。



講演会に65名が参加 イ病資料館



展示室での説明を熱心に聴く環境省職員 清流会館

## ● 環境省職員が清流会館で研修

環境省の職員28名が9月19日「環境問題史現地研修」(富山コース)でイタイイタイ病資料館、清流会館、神岡鉱業(株)へ訪れました。公害の経験を後の世代へ伝える取組みを、現地を訪ね、被害地域の声を聞くことを通して、環境行政の役割を考える機会となりました。特に、清流会館における研修では、半世紀を越えなお続く住民運動の実態と課題に多くの質問が寄せられました。

## ● 第8回作文コンクールに多数の応募 三井金属が毎年100万円の協賛金

第8回清流環境作文コンクールの応募数は1,091件、応募学校数41校でした。今年度もたくさんの応募ありがとうございました。これから審査が開始され、来年2月21日10時よりイタイイタイ病資料館で表彰式を開催いたします。

また、今年度から三井金属が被団協の活動の中で特に作文コンクールを未来志向の活動として評価し、同コンクールに協賛金100万円を支出していただくことになりました。

# 清流によせて



弁護士  
山本 直俊

## プロフィール

東京都出身。  
早稲田大学法学部卒業。  
1974(昭和49)年4月弁護士登録(富山中央法律事務所入所、イ病弁護団所属)。  
1991年4月富山県弁護士会々長(日弁連常務理事)。  
1996年4月独立開業(山本直俊法律事務所)。  
2024年5月イタイイタイ病弁護団々長。

## 清流会館の竣工 50 年を迎えるにあたって

清流会館は来年 2026 年 5 月に竣工 50 年を迎えます。この会館は、私が弁護士となつて 3 年目の 1976 (昭和 51) 年 5 月に完工して盛大な竣工式典が行われ、以後住民運動の拠点として重要な会議や数々の集会等に使われて今日に至りました。会館建設は 1972 年 8 月 9 日のイ病裁判完全勝訴判決を基に、イタイイタイ病対策協議会が計画した三つの記念事業、映画「イタイイタイ」の製作と裁判記録全 6 巻の出版に引き続く三番目の事業として実施されたものです。名称は、清い神通の流れを取り戻し公害根絶と環境保全の願いを込め、一致して「清流」会館に決まったと記憶しています。

ところで、この会館にはイ病とカドミウム公害についての資料展示室が設けられており、裁判に関するもののほか患者救済や土壤復元、立入調査を主とする発生源対策などの貴重な資料が多く展示されています。その後、2012 年 4 月に富山県立イタイイタイ病資料館が開館し、それに伴いイ病や裁判時の資料など多くのものが同資料館に寄贈され、展示資料は縮小されました。それでも同展示室にはイ病資料館には無い公害まき返しや行政の後退、また全国の公害反対運動などに関するものがあり、清流会館ならではのイ病闘争の実相が判る展示室となっています。

ただ、開館後一部展示物の追加、改装がなされました。それも 2000 年前頃までで、それ以降今日までの患者認定数の推移等や土壤復元の完工と手直し工事問題、発生源対策の更なる進展及び「全面解決」などの重要な資料や記事がありません。そこで現在、イ対協では来年 11 月の結成 60 周年にあたり、展示室の大幅なりニューアルを企画、検討していると聞いていますが、是非ともそれが実現されることを願うものです。清流会館はイタイイタイ病のシンボルとも言えるモニュメントです。その維持、管理には大変な苦労が伴うものと思いますが、貴重な施設として出来る限り長く後世に残し、イ病の風化防止に努めていただければと思います。

## 主な活動記録（令和7年6月～10月）

### 6月

- 6.2 被害地域住民の活動だより第 2 号発行  
6.4 第 50 回総行動環境大臣交渉、環境保健部長交渉  
6.5 三井金属鉱業本社 作文コンクール協賛金、カドミ復元田手直工事要望  
6.11 高岡市校長会 作文応募の説明会  
6.21 ~ 22 新潟水俣病資料館、旧昭和電工鹿瀬工場周辺視察  
23 名参加  
6.26 神岡鉱業(株)岡田社長退任挨拶、田邊新社長就任挨拶、高橋管理部長異動挨拶

### 7月

- 7.5 神岡鉱業(株)への植栽専門立入調査 18 名参加  
7.9 環境省保険業務室長来館 展示室、資料室の視察  
7.13 イ対協次世代交流会 22 名参加  
7.25 復元用手直し工事で婦中・新保土改理事長と打ち合わせ

### 8月

- 8.6 資料保存研究会 イ病訴訟関係は一応完了  
8.7 イ病弁護団会議  
8.9 裁判勝訴 53 周年記念講演会 65 名参加  
金沢医科大 櫻井特任教授  
8.24 イ病認定審査会の開催 新規の認判定はなし  
8.24 中坪勇成さん 語り部デビュー

### 9月

- 9.9 高岡法科大学、追手門大学学生が視察  
50 名が研修で来館  
9.19 環境省職員現地研修研修会 28 名視察で来館  
9.25 環境省と住民健康調査に関する Web 会議

### 10月

- 10.4 全体立入調査事前学習会  
10.8 第 8 回清流作文審査部会  
10.11 第 54 回全体立入調査 61 名参加  
10.24 環境省と住民健康調査に関する Web 会議  
10.25 神岡鉱業(株)への住民専門立入調査  
10.27 イ病弁護団会議

### 今後の予定

- 11.22 発生源対策総括会議  
11.28 東大 SK 立入調査  
12.2 被団協総括会議 県議・弁護団・農業団体長  
12.13 神岡鉱業(株)との意見交換会  
令和 8 年 2.21 第 8 回清流作文コンクール表彰式

### 編集後記

活動の風化が進む中、被害地域住民の活動は何を継続し、何をあきらめしていくのか。この「何」を見つけることができる時間はまだ少しある。この「何」とは、田んぼの再汚染させない事、神通川の清流を再汚染させない事、人がイタイイタイ病に二度とならない事、風化させずに語り伝える事。いろんなやるべき事の中から被害地域住民は残された時間の中で「何」を選んでいくのだろうか。